

## 分科会での検証に関する用語集

(五十音順)

No	用語 (よみがな)	説明
1	アトムプローブ測定 (あとむぷろーぶそくてい)	針状試料の先端に高電圧をかけることで放電させ、金属表面の原子をイオン化し、そのイオンを検出することで試料内の原子分布を測定すること。
2	アニュラス部 (あにゅらすぶ)	加圧水型原子炉における原子炉格納容器と原子炉建屋の間の気密性の高い円環状空間。その空間を負圧に保つことで、事故時に原子炉格納容器から漏れ出す放射性物質を閉じ込める二重格納設備としての機能を有する。
3	アモルファス (あもるふあす)	結晶構造を持たないか、あるいは部分的な結晶構造を持つ物質の状態。
4	アルカリ骨材反応 (あるかりこつざいはんのう)	コンクリート中のアルカリ性水溶液と骨材中の鉱物(反応性鉱物)が反応し、膨張性の物質が生成されること。
5	アルカリシリカ反応 (あるかりしりかはんのう)	コンクリート中のアルカリ性水溶液と二酸化珪素( $\text{SiO}_2$ )が反応し、膨張性の物質が生成されること。
6	アレニウスの法則 (あれにうすのほうそく)	物体の化学反応(劣化)の速度と温度の関係を表す法則。
7	アンカー (あんかー)	部材や器具などを建物へ取り付けるために打つ、抜けにくい構造をした鉄。
8	安山岩 (あんざんがん)	火成岩の一種で、地表に吹き出たマグマが短時間で冷やされたときに生成される。
9	一次遮蔽壁 (いちじしゃへいへき)	原子炉容器を直接取り囲むコンクリート壁。通常運転時の原子炉からの放射線を減衰させるとともに、原子炉停止時に一次冷却系統設備の補修が可能な程度に、原子炉からの放射線を減衰させる役割を持つ。
10	一次冷却材 (いちじれいきゃくざい)	原子炉内で燃料を直接冷却し、熱を取り出すことに用いられる流体(原子炉冷却材)。加圧水型軽水炉では、軽水(水)を用いており、放射性物質を含む。
11	ウォータージェットピーニング (うおーたーじえっとピーにんぐ)	原子炉内構造物に対して高圧水を水中で噴射させ、衝撃力を金属に与えることで、内部に残っている応力を減らし、金属部品の応力腐食割れ(SCC)に対する耐食性を向上させるほか、疲労強度を向上させる予防保全技術。
12	渦電流 (うずでんりゅう)	金属等の電気伝導体を磁場内で動かしたり、磁界を変化させた時に、電磁誘導により電気伝導体内に流れる渦状の電流。

No	用語 (よみがな)	説明
13	運転期間延長認可制度 (うんでんきかんえんちょう にんかせいど)	2012年の原子炉等規制法改正により新たに導入された、原子力発電所の運転期間を40年とし、1回に限り最大20年の運転期間の延長を認める制度。
14	運転シミュレータ (うんでんしみゅれーた)	原子炉で起こる種々の現象を、計算機を用いて、実際に近い情報を仮想的に提示して運転員の訓練を行う装置で、航空機のパイロットの使う運転シミュレータとも類似した装置。
15	運転状態Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ (うんでんじょうたい)	運転状態Ⅰ：通常運転状態 運転状態Ⅱ：正常な運転状態よりやや外れた状態 運転状態Ⅲ：正常運転よりかなり外れた状態 運転状態Ⅳ：仮想的な事故の状態
16	塩化物イオン (えんかぶつゐおん)	塩分がコンクリートに侵入した際、塩化物イオンとして移動する。塩化物イオンは、鉄筋に対して錆の発生を助長する働きをする。
17	延性 (えんせい)	金属の性質を示す特性の一つで、材料を引っ張って伸ばしたときに破壊されずに引き延ばされる性質。
18	応力拡大係数 (おうりょくかくだいけいすう)	き裂や欠陥が存在する材料の強度評価に用いられる数値であり、き裂先端付近の応力分布の強さを表す。
19	オーステナイト系ステンレス (おーすてないとけいすてん れす)	常温でオーステナイト(鉄鋼の組織の名称)を主要な組織とするステンレス鋼。18%のクロムと8%のニッケルを含み、SUS304が代表的な鋼種。
20	応力腐食割れ (おうりょくふしょくわれ)	腐食環境下において、金属材料に引張応力が作用することで、材料に割れが生じる現象。応力腐食割れの発生条件として、材料因子・力学因子・環境因子が挙げられ、3因子のうち1因子以上を取り除けば発生しない。
21	温度分布解析 (おんどぶんぷかいせき)	熱の移動によって物体の温度分布(温度の不均一さ)がどのように変化するか調べる解析。
22	加圧熱衝撃 (かあつねつしょうげき)	事故などにより原子炉内に冷たい水が注入された場合、高温である原子炉容器外側と、水と接する内側の温度差により、引張応力が容器内面に発生する事象。
23	改善措置活動 (かいぜんそちかつどう)	事業者が、自主的な安全性向上の取組として、発電所内で気づいたこと、国内外の原子力発電所で発生したことなどを確認し、発電所の運用や設備の改善などを行うこと。
24	回転子 (かいてんし)	発電機や電動機等の回転する部分の総称。
25	ガイドライン (がいどらいん)	ルールや法律、規程などの守るべきことについて、どう行動すればよいのかの指針を記したもの。

No	用語 (よみがな)	説明
26	格納容器 (かくのうようき)	原子炉格納容器ともいわれ、原子炉容器や1次冷却材ポンプ、蒸気発生器などの冷却システムの主要な機器を収容している気密を保った建物。放射性物質が放出された場合に、外に出るのを防ぐ役目を持つよう造られている。
27	格納容器鋼板 (かくのうようきこうはん)	格納容器を構成している鋼板で、発電所の中でも大きな構造物を構成する主要な材料。
28	火災防護 (かさいぼうご)	火災の発生防止、火災の感知及び消火、火災の影響軽減対策。
29	ガスケット (がすけっと)	パイプとパイプの継ぎ手などに使われ気密性、液密性を持たせるために用いる固定用シール材。
30	架台 (かだい)	設備機器などの重量物を設置する台座。
31	過渡回数 (かとかいすう)	発電所の機器が原子炉の起動・停止時等により温度・圧力変化の影響を受ける回数。 実過渡回数は、想定ではなく実際に経験した回数を指す。
32	かぶり厚さ (かぶりあつさ)	鉄筋コンクリート構造物において、鉄筋の表面からコンクリート表面までの最短寸法。
33	渦流探傷試験 (かりゅうたんしょうしけん)	検査物に電流を流したコイルを近づけ、コイルに流れる電流の変化により、傷を検出する非破壊検査。表面の傷の検出に適している。
34	環境疲労評価 (かんきょうひろうひょうか)	原子炉設備構造物に用いられている材料の疲労寿命が高温水中では減少する傾向にあることから、接液部の疲労評価において原子炉冷却水中における環境効果を考慮する場合の評価手法。
35	監視試験片 (かんししけんへん)	運転に伴う原子炉容器の脆化の傾向を把握するため、原子炉容器と同じ材料で製作され、運転開始当初から原子炉炉心近傍に取り付けられている金属片。
36	乾燥単位容積質量 (かんそうたんいようせきしつりょう)	コンクリートの放射線に対する遮蔽能力を表す指標であり、乾燥単位容積質量＝(供試体の乾燥状態の質量)／(供試体の体積)として定義される。
37	乾燥ひび割れ (かんそうひびわれ)	骨材に含まれている水分の乾燥に伴って、コンクリートの表面に不規則な網目状に発生するひび割れ。
38	感度 (かんど)	測定量(長さや重さなど)の変化に対して指示される数値の比で、計測法の性能の指標。
39	ガンマ線 (がんません)	放射線の一種。原子核反応に関連して放出される電磁波。

No	用語 (よみがな)	説明
40	管理損傷ボルト (かんりそんしょうぼると)	炉内構造物であるバツフルフォーマボルトに対して許容される損傷ボルト数であり、ボルト本数全体の2割の本数。発電用原子力設備規格 維持規格に規定されている。
41	関連温度 (かんれんおんど)	金属の脆性を調べるために行うシャルピー衝撃試験において、温度を変化させて吸収エネルギー(破壊靱性値)の測定を行うと、低温時にはほぼ一定で、低温側から高温側の間で吸収エネルギーが指数関数的に増加し、高温時に再度一定の値に達する。この変化している領域の代表点の温度を関連温度といい、脆性遷移温度ともいう。
42	基礎 (きそ)	土木構造物や建物構造物を支持し、安定させるための土台となる部分。
43	気中帯, 干満帯, 海中帯 (きちゅうたい, かんまんたい, かいちゅうたい)	海水中に設置されている構造物のおかれている場所の環境を示す表現であり、潮位により3つに区分される。
44	キャニスター型, モジュラー型ペネトレーション (きゃにすたーがた, もじゅらーがたぺねとれーしょん)	キャニスター型は金属などの無機物で気密性を確保し、モジュラー型は樹脂やゴムなどの有機物で気密性を確保している。ペネトレーションについては、No. 190を参照。
45	吸収エネルギー (きゅうしゅうえねるぎー)	衝撃試験において試験片を破断する際に必要なエネルギーのこと。この値が小さいほど材料は破壊に対する抵抗(破壊靱性値)が低いことを示す。
46	強度 (きょうど)	物の強さの度合い。物がどのくらいの力に耐えられるか示した値。
47	強度試験 (きょうどしけん)	材料や製品の強度を測定する試験。引張試験・圧縮試験・曲げ試験の3種類が代表的な試験。
48	供用期間中検査 (きょうようきかんちゅうけんさ)	供用期間中(運転開始後)に設備の非破壊試験及び漏えい試験などを行い、設備の経年変化を確認する検査。
49	き裂 (きれつ)	材料に生じた欠陥で、その先端の局所的な領域で原子面の分離が生じた破壊の状態。
50	き裂の進展速度 (きれつのしんてんそくど)	材料中のき裂先端の移動速度。
51	クラッド (くらっど)	母材の耐食性向上を目的に、原子炉容器内面に溶接したステンレス鋼。
52	クリアランス (くりあらんす)	寸法的な余裕。
53	クリープ (くりーぷ)	材料に荷重が負荷されるときに、ひずみが時間の経過とともに増加する現象。

No	用語 (よみがな)	説明
54	クリストバライト (くりすとばらいと)	コンクリートの骨材に含まれる鉱物の一種で、アルカリ骨材反応の原因になる可能性があるとしてされている。
55	経年劣化管理 (けいねんれつかかんり)	原子力発電所の構築物、系統及び機器の劣化に対する保守管理。
56	経年劣化事象 (けいねんれつかじしょう)	時間経過とともに性能を劣化させる現象の総称。
57	ケーブル (けーぶる)	ケーブルとは、導体に絶縁性を持つ被覆を施し、さらに外装(シース)を施したものの。
58	ケーブルトレイ (けーぶるとれい)	電気・通信用ケーブルをまとめて引き回すための収納用の矩形の入れ物(トレイ)。
59	結露 (けつろ)	空気中に含まれる水蒸気が物質の表面に水となって現れる現象。湿気があり温度差がある場所に発生する。
60	ゲル (げる)	アルカリ骨材反応によってコンクリート中に生成される物質が固まって、半固体ないし固体の状態になったもの。
61	ケレン (けれん)	塗装に先立って「さび落とし」などの表面をきれいにする事。
62	検証 (けんしょう)	しっかり調べて事実を確認すること、及びその確認のために行う作業。
63	現状保全 (げんじょうほぜん)	現在実施されている保全。保全については、No. 200 参照。
64	原子力安全基盤機構 (げんしりょくあんぜんきばんきこう)	原子炉施設等に関する検査等を行うとともに、原子炉施設等の設計に関する安全性の解析及び評価等を行うことにより、エネルギーとしての利用に関する原子力の安全の確保のための基盤の整備を図ることを目的として設立された組織。2014年3月1日に原子力規制庁に統合された。
65	原子力エネルギー協議会 (げんしりょくえねるぎきょうぎかい)	原子力産業界の共通的な技術課題に、原子力産業界全体で取り組むために、事業者・メーカーで設立した組織。
66	原子力規制委員会 (げんしりょくきせいいいんかい)	専門的な知見に基づく中立公平な立場から原子力の安全規制に関する業務を一元的に担う行政機関。新規制基準への適合性の審査等を行う。
67	原子炉施設 (げんしろしせつ)	原子力発電所を構成する構築物、系統及び機器。
68	原子炉補助建屋 (げんしろほじょたてや)	原子炉が設置されている建屋の周辺に配置された建屋であり、中央制御室や補助的な機器等が設置されている。

No	用語 (よみがな)	説明
69	原子炉容器 (げんしろようき)	燃料と炉内支持構造物を収納し、通常運転時の高温・高圧、異常時の過渡変化、さらに高速中性子による脆化などに対しても原子炉冷却材圧力バウンダリとしての機能を十分果たせるように設計された容器。
70	原子炉容器の中性子照射脆化 (げんしろようきのちゅうせいししょうしゃぜいか)	原子炉容器が、燃料のウランが核分裂する過程で発生する中性子の照射を長い年月をかけて受け続けることにより、次第に粘り強さが低下する（脆くなる）事象。
71	原子炉冷却材圧力バウンダリ (げんしろれいきやくざいあつりょくばうんだり)	軽水炉等の発電炉において原子炉冷却材を高温・高圧に保持するため、原子炉冷却材の圧力を保持する器壁や管壁。
72	健全性評価 (けんぜんせいひょうか)	経年劣化事象の発生又は進展を予測して実施する構築物、系統及び機器の安全機能に与える影響の評価。
73	コアサンプル (こあさんぷる)	試験のためにコンクリートを少量抜き取った試料。
74	高経年化 (こうけいねんか)	機器や材料が長期間使用されること。
75	高経年化技術評価 (こうけいねんかぎじゅつひょうか)	原子力発電所の運転を開始した日以降 30 年を経過する日までに、安全を確保する上で重要な機器について、経年劣化に関する技術的な評価のこと。30 年経過以降は 10 年ごとに実施する。
76	高経年化対策 (こうけいねんかたいさく)	保守管理のうち原子力発電所の構造物、系統及び機器に想定される経年劣化事象に対して、長期間の供用を考慮した活動を行うこと。
77	コールドレグ (こーどれぐ)	PWR では、原子炉で加熱された高温水を蒸気発生器に導き蒸気を発生させ、蒸気発生器での熱交換により冷却された水を原子炉に戻す一次冷却系を構成しているが、冷却された低温側の冷却水が流れる部分をいう。
78	固定子コイル (こていしこいる)	回転子を回転させるための力を発生させる電動機等の一部分。
79	コンクリートシェル (こんく्रीーとしえる)	シェル構造は、薄い曲面板からなる建築構造を指す。鉄筋コンクリートで造られることが多く、シェル構造の建築物の形状には、円筒、球面、折板など様々なものがあり、原子炉格納容器などは円筒と半円を組み合わせたものが使われる。

No	用語 (よみがな)	説明
80	コンクリートの強度低下及び 遮蔽能力低下 (こんくりーとのきょうどて いかおよびしゃへいのうりよ くていか)	熱、放射線等の影響により、時間とともに、コンクリートの強度や放射線の遮蔽能力が低下する事象。
81	細骨材 (さいこつざい)	コンクリートに含まれる骨材の中で粒径が概ね 5mm 以下のもの。
82	サブマージアーク溶接 (さぶまーじあーくようせつ)	事前に粉末状のフラックスを溶接線状に散布しておき、溶接ワイヤと母材との間にアークを発生させて溶接する方法。大電流の溶接が可能のため、溶接の能率が高く、構造物などの厚物鋼板などの溶接に使われている。
83	残留応力 (ざんりゅうおうりょく)	外力を除去した後も物体内に存在する応力。
84	シーケンス (しーけんす)	電気設備や機械、装置が動作する一連の順序。
85	しきい値 (しきいち)	境界線、境目。ある値が所定の水準を超えると特定の変化が生じたり判定・区別が変わったりする場合の「所定の水準」「数値的な境目」「境界線となる値」を意味する語。
86	事故シーケンス (じこしーけんす)	炉心（燃料）の著しい損傷に至る可能性のある事故のシナリオを、起因事象、安全設備や緩和操作の成功・失敗などの組合せとして表したものの。
87	実体顕微鏡 (じったいけんびきょう)	比較的低倍率（2～30 倍程度）で、観察対象を薄切標本（プレパラート）などにせず、そのままの状態を観察する顕微鏡。
88	自動 TIG (じどうていぐ)	自動溶接機による TIG 溶接。TIG 溶接とは、タングステン電極と母材との間にアークを発生させ、アルゴンガスなどの不活性ガスにより溶融金属を大気から保護し、アーク熱により母材を溶融接合する溶接法。
89	磁粉探傷試験 (じふんたんしょうしけん)	試験体に磁性を与え、表面に磁粉と言われる磁性体の微粉末を散布させて、きず部分に吸引されることによりできる磁粉模様によりきずを検出する方法。
90	遮蔽 (しゃへい)	放射線の物質による吸収あるいは散乱を利用して、被ばく線量を低減させる方法。
91	シャルピー衝撃試験片 (しゃるぴーしょうげきしけんへん)	ハンマーで試験片を打撃して破壊し、打撃後のハンマーの振り上げ角度を読み取って試験片の破壊に費やされたエネルギーを求める試験をシャルピー衝撃試験といい、その試験に用いる試験片のこと。

No	用語 (よみがな)	説明
92	蒸気暴露試験 (じょうきばくろしけん)	事故時の蒸気の状態と同じ環境に機器を置いて性能変化を調べる試験。
93	照射脆化 (しょうしゃぜいか)	主に中性子の長時間照射により鋼材の伸びが制限されるようになり、いわゆる粘り強さが低下して脆くなる現象。
94	上部棚領域での靱性 (じょうぶたなりょういきでのじんせい)	高温時における鋼材の粘り強さ(靱性)の程度を表す指標。原子炉容器が中性子の照射を受け脆化が進むと低下する。
95	自由水 (じゆうすい)	分子が自由に動き回ることでできる水のことであり、コンクリート中の自由水に放射線が照射されると、乾燥収縮などによりコンクリートの強度が低下する可能性がある。
96	重大事故 (じゅうだいじこ)	設計基準事故を超える事象で、発電用原子炉の炉心の著しい損傷又は核燃料物質貯蔵設備に貯蔵する燃料体若しくは使用済燃料の著しい損傷を指す。
97	周方向 (しゅうほうこう)	円周の接線方向。
98	重要度分類 (じゅうようどぶんるい)	発電用軽水炉施設の安全性を確保するために必要な機能について、安全上の観点から構築物、系統等に重要度を定め分類したもの。
99	主筋 (しゅきん)	鉄筋コンクリート造の建築物において、荷重を負担する主要な鉄筋であり、主に曲げ応力に対応するもの。
100	取水構造物 (しゅすいこうぞうぶつ)	海水を取水するためのコンクリート構造物。
101	蒸気発生器 (じょうきはっせいき)	蒸気を発生させる装置。加圧水型原子炉では、原子炉炉心で加熱された高温高圧水を、多数の伝熱管を介して2次側の水と熱交換して蒸気を発生させる。得られた蒸気は、気水分離器、湿水分離器により湿分を分離したのち発電機のタービンに供給される。
102	照射 (しょうしゃ)	物質に中性子、電子線、 $\gamma$ 線などの放射線をあてること。
103	照射誘起型応力腐食割れ (しょうしゃゆうきがたおうりょくふしょくわれ)	中性子照射の影響(照射損傷)が炉内構造材料であるステンレス鋼に蓄積することに起因して発生する応力腐食割れ(SCC)現象。
104	上部棚吸収エネルギー (じょうぶたなきゅうしゅうえねるぎー)	高温時における鋼材の粘り強さ(靱性)の程度を表す指標。低温側から高温側の間で吸収エネルギーが変化し、高温側での吸収エネルギーを上部棚吸収エネルギーと呼ぶ。



No	用語 (よみがな)	説明
105	新規制基準 (しんきせいきじゅん)	福島第一原子力発電所の事故の教訓や世界の最新知見を踏まえ、原子力規制委員会が策定した基準。重大事故対策、耐震・耐津波性能、自然現象・火災に対する考慮等から構成される。
106	真空逃がし装置 (しんくうにがしそうち)	発電所の通常運転中に格納容器のスプレイ系の誤作動により、格納容器内雰囲気温度の急速冷却によって負圧となった場合に、格納容器が許容外圧以上の圧力を受けないように外気を導入する装置。
107	人工欠陥 (じんこうけっかん)	溶接部検査などの校正試験に用いる試験体に、予め放電加工や特殊溶接で模擬的に作られた表面の割れ、溶接材の溶け込み不良などの欠陥のこと。
108	浸透探傷試験 (しんとうたんしょうしけん)	浸透探傷試験は、浸透液（着色されたり、蛍光性を持たせた液体）のきず内部への浸透現象を利用して表面きずを検出する方法で、目視だけでは識別できない割れ、きずなどの検出に用いられる。
109	スウェリング (すうえりんぐ)	金属材料が中性子照射を受けると体積が膨張する現象。
110	スタッド (すたっど)	鉄骨とコンクリートを一体化するため、鉄骨の母材に溶接で取り付けるボルトなどの鋼棒。
111	ステップ状温度変化 (すてっぷじょうおんどへんか)	温度の時間的な変化の様子を示す表現で、非常に短い時間に急激に温度が変化様子。
112	スプレイ (すぷれい)	液体の噴霧、散布。
113	スプレイリング (すぷれいりんぐ)	事故時に、原子炉格納容器内の温度、圧力上昇を抑え、原子炉格納容器内に放出される放射性物質を除去するため、ほう酸水とヨウ素除去剤を含む水を原子炉格納容器内に散布するものであり、格納容器内上部にリング状に配置されている。
114	スライドサポート (すらいどさぽーと)	配管の熱膨張に合わせて支持部がスライドするような設計を行い、固定部に応力が集中するのを防止するような配管固定方法。
115	脆化 (ぜいか)	金属やプラスチックなどが延性や靱性を失い、脆（もろ）く壊れやすくなること。

No	用語 (よみがな)	説明
116	脆性遷移温度 (ぜいせいせんいおんど)	金属の脆性を調べるために行うシャルピー衝撃試験において、温度を変化させて吸収エネルギー(破壊靱性値)の測定を行うと、低温時にはほぼ一定で、低温側から高温側の間で吸収エネルギーが指数関数的に増加し、高温時に再度一定の値に達する。この変化している領域の代表点の温度を関連温度といい、脆性遷移温度ともいう。
117	絶縁低下 (ぜつえんていか)	熱、放射線等の影響により、絶縁物の電気抵抗が低下し、絶縁性が低下する現象。
118	石基 (せっき)	火山岩の組織で細かい結晶あるいはガラス質からなる部分。
119	設計基準事故 (せつけいきじゅんじこ)	設計上想定している事故。
120	全交流動力電源喪失 (ぜんこうりゅうどうりよくでんげんそうしつ)	外部電源及び所内非常用電源(非常用ディーゼル発電機)を喪失し、設計基準上の交流電源を全て喪失した状態。
121	せん断ひずみ (せんだんひずみ)	せん断力により生じるひずみで、物体の断面をずらすような変形が発生したときの、元の長さに対する変化量の比。
122	相分離 (そうぶんり)	単一の相にあった物質が、温度・圧力などの変化によって複数の相に分離すること。
123	タービン (たーびん)	蒸気のもつエネルギーを、羽根車と軸を介して回転運動へと変換する外燃機関。
124	タービン架台 (たーびんがだい)	重量のあるタービンを支える基礎架台
125	耐圧試験 (たいあつしけん)	圧力を受ける容器および配管などに対して、完成時、補修改造時および定期点検時に気密性および水密性を確認するために、水や空気を用いて加圧する試験。
126	探傷 (たんしょう)	超音波などを用いて構造物の表面や内部の欠陥を探知すること。
127	弾性解析 (だんせいかいせき)	材料が変形した時の力やひずみを計算によって求める基本的な構造解析の手法で、変形量と力は比例関係で、材料の強度や剛性(変形のしにくさ)の評価に使う。
128	炭素鋼, 低合金鋼 (たんそこう, ていごうきんこう)	炭素鋼は鉄と炭素の合金で、炭素含有量が0.02%~2.14%までの鉄鋼材。低合金鋼は、合金元素含有量の総量が5%以下の合金鋼。
129	弾塑性解析 (だんそせいかいせき)	弾性だけでなく塑性(非弾性:途中で力を抜いた時に元に戻り切らない性質)も考慮している解析手法で、変形量と力は比例関係にはなく、解析的な扱いは弾性解析より複雑になる。

No	用語 (よみがな)	説明
130	チェック弁 (ちえっきべん)	逆止弁, 逆流防止弁であり, 英語の Check Valve を日本語読みで「チェック弁」と言われている。
131	遅延膨張性骨材 (ちえんぼうちょうせいこつざい)	アルカリ骨材反応に伴い, 数十年経過した後に問題となるような膨張が検出される骨材。
132	蓄圧タンク (ちくあつたんく)	PWR の緊急炉心冷却系の構成機器の一つで, 核分裂反応を抑えるために使われる「ほう酸水」を収めておき, 原子炉内の水が漏洩して水圧が低下したときに, このタンクから注水する。
133	中性化 (ちゅうせいか)	空気中の二酸化炭素の作用により, コンクリートのアルカリ性が徐々に失われ中性に近づくこと。中性化が進むと鉄筋が腐食し, 体積が膨張することで, コンクリートにひび割れが発生する可能性がある。
134	中性化深さ (ちゅうせいかふかさ)	中性化の進み具合を中性化深さといい, コンクリート表面から中性化している範囲を測定して求められる。
135	中性子 (ちゅうせいし)	原子核を構成する主要な粒子で, 電荷を持たず, 原子核内の陽子とほぼ同じ重さである。
136	超音波探傷試験 (ちょうおんぱたんしょうしけん)	検査物に超音波を当て, その超音波の反射の変化により, 傷を検出する非破壊検査で, 内部の傷の検出に適している。
137	重畳 (ちょうじょう)	幾えにも重なること。
138	定期検査 (ていきけんさ)	法に基づき約一年に一回(13か月以内)運転を停止し, 各機器に対して必要な点検, 検査を行うこと。
139	低サイクル疲労 (ていさいいくるひろう)	原子炉の起動・停止等による温度, 圧力の変化により, 繰り返し応力がかかる部位に疲労が蓄積し, 疲労割れが発生する事象。
140	鉄筋腐食減量 (てつきんふしょくげんりょう)	コンクリート中の鉄筋が腐食する場合に, その腐食の量を定量的に求め, 鉄筋の劣化を評価する際に使用する指標。
141	デブリ (でぶり)	原子炉事故で炉心が過熱し, 溶融した核燃料や原子炉構造物が混ざり合い冷えて固まったもの。
142	転位 (てんい)	金属の結晶中に含まれる, 原子の並びが線状に乱れた欠陥。
143	電気防食装置 (でんきぼうしょくそうち)	腐食時に金属表面により発生する電流を打ち消すための電流を供給することにより格納容器鋼板の腐食を防ぐ装置。

No	用語 (よみがな)	説明
144	電共研 (でんきょうけん)	電力共同研究の略称。複数の電気事業者と企業の共同研究。
145	電中研 (でんちゅうけん)	電力中央研究所の略称。電気事業に関連する科学技術・経済・政策の研究開発を行う研究機関。
146	凍結融解 (とうけつゆうかい)	コンクリート中の水分が凍結し、その膨張作用によりひび割れが発生する現象。
147	特定重大事故等対処施設 (とくていじゅうだいじことうたいしよしせつ)	故意による航空機衝突やその他のテロリズムにより、炉心の著しい損傷が発生するおそれ、または発生した場合に、原子炉格納容器の破損による放射性物質の放出を抑制するための施設。
148	特別点検 (とくべつてんけん)	運転期間延長認可申請にあたり、原子炉容器、原子炉格納容器及びコンクリート構造物に傷や腐食等がないかを詳しく調べる点検。
149	塗膜 (とまく)	塗料を鉄板やコンクリートの表面などに塗ってそれが固まった塗料の膜。
150	ドレンポット (どれんぽっと)	排液などのドレン水が集まる箇所。
151	生データ (なまでーた)	測定装置などから直接得られるデータで、解析などの処理を行う前のデータ。
152	肉盛り溶接 (にくもりようせつ)	様々な素材(母材)の表面に新たに金属材料を溶接する手法。
153	二相ステンレス鋼 (にそうすてんれすこう)	オーステナイト系ステンレスとフェライト系ステンレスが二相混合したステンレス鋼。
154	ニュートロン (にゅーとろん)	原子核を構成する主要な粒子で、電荷を持たず、原子核内の陽子とほぼ同じ重さである。
155	入熱 (にゅうねつ)	溶接部に外部から与えられる熱量。
156	熱影響部 (ねつえいきょうぶ)	溶融していないが、溶接・切断などの熱により組織や機械的性質などが変化した母材の部分。
157	熱応力 (ねつおうりょく)	温度の変化(材料の熱膨張、収縮)により物体内部に発生する応力。
158	熱時効 (ねつじこう)	castingにより製造されたステンレス鋼が高い温度で長時間使用することにより、次第に粘り強さが低下する(脆くなる)事象。
159	熱伝達率 (ねつでんたつりつ)	固体の表面と流体の間における熱の伝わりやすさを示した値。
160	熱伝導解析 (ねつでんどうかいせき)	構造解析の1つで、対象物への熱の流入や流出、対象物内部の温度分布や温度勾配、熱流束等を求める解析。

No	用語 (よみがな)	説明
161	熱疲労 (ねつひろう)	熱による応力（熱ひずみ）の繰り返しによる材料が壊れる現象の総称。
162	熱膨張係数 (ねつぼうちょうけいすう)	物質固有の材料特性で、温度が1℃上昇すると寸法がどれくらい膨張するかを表す係数。
163	ノウハウ (のうほう)	専門的な事柄に対して対処する方法や手段。
164	ノズル (のずる)	気体や液体のような流体の流れる方向を定めるために使用されるパイプ状の機械部品。
165	配筋 (はいきん)	鉄筋コンクリート構造物に含まれる鉄筋の配置。
166	配力筋 (はいりょくきん)	主筋方向以外の方向に応力を分散させるために配置する鉄筋。
167	破壊靱性値 (はかいじんせいち)	き裂が進展したり、破壊に対する材料の抵抗値のことで、材料の粘り強さを表す。
168	爆着 (ばくちゃく)	爆薬の爆発時の圧力により金属同士を圧接する方法。
169	バッフルフォーマボルト (ばっふるふおーまぼると)	原子炉内において、冷却水の流れを作るための板を固定するためのボルト。長さは7cm程度で、炉内で1,080本が使われている。
170	パラボリック形状 (ぱらぼりっくけいじょう)	ボルト首下に発生する応力集中を低減するため、放物線形状にしたもの。
171	パンデミック (ぱんでみっく)	感染症の世界的な大流行。
172	反応性試験 (はんのうせいしけん)	コンクリートに使用する骨材がアルカリシリカ反応によって膨張する可能性があるかを判定する試験。
173	反応リム (はんのうりむ)	アルカリ骨材反応により生じる骨材粒子周縁部の変色のことをいう。
174	ヒートサイクル方法 (ひーとさいくるほうほう)	材料を繰り返し加熱・冷却する試験方法を指し、温度変化に対する物理的・機械的特性の信頼性を評価する試験。
175	比較衡量 (ひかくこうりょう)	両者の概念の重要性や価値の大きさ等を比較して選択するという概念。
176	非結晶化 (ひけっしょうか)	結晶物質のように原子や分子が規則正しい配列をとらず不規則な配列をしている固体物質。
177	非常用ディーゼル発電設備 (ひじょうようでいーぜるはつでんせつび)	発電所内外の事故や故障で常用電源が異常になった時に、発電所内の電源を確保するための非常用の発電設備。

No	用語 (よみがな)	説明
178	非常用炉心冷却系 (ひじょうようろしんれいきやくけい)	原子炉で原子炉冷却系の配管破断が起きる等の事故が発生し、原子炉冷却材が炉心から喪失した場合に直ちに冷却材を炉心に注入して炉心を冷却する安全システム。
179	ビッカース硬さ試験 (びっかーすかたさしけん)	工業分野で幅広い材料に利用される硬さ試験。ダイヤモンドでできた角錐形圧子を試験片に押し付け、できた圧痕の表面積を測定して硬さを求める。
180	引張応力 (ひっぱりおうりょく)	物体に外力を与えた時、その原形を保つために抵抗しようとする力。
181	非破壊検査 (ひはかいけんさ)	機械部品や構造物の欠陥を、対象物を破壊することなく検出する技術。超音波、放射線、電流などを用いる。
182	疲労 (ひろう)	物体が力学的応力を継続的に、又は繰り返し受けた場合にその物体の材料としての強度が低下する現象。
183	疲労累積係数 (ひろうるいせきけいすう)	材料の疲労がどれほどたまっているのかを表す係数で、1を超えると疲労割れが起こる可能性がある。
184	負圧 (ふあつ)	建物の屋内と屋外の気圧を比較したときに、内部の気圧が低くなっている状態。
185	フェライト相 (ふえらいとそう)	純鉄（高純度の鉄）において、911℃以下の温度領域にある鉄の相（組織）。
186	腐食 (ふしょく)	鉄筋や鉄骨などの金属材料が水や酸素などと化学反応をし、表面が変質したりはがれ落ちたりする現象。
187	不動態 (ふどうたい)	金属の表面に酸素と結合した被膜ができ、内部を腐食（錆び）から保護する状態のこと。
188	フランジ (ふらんじ)	部材の端部を他の部材に接合するためのツバ。
189	分解能 (ぶんかいのう)	測定の細かさの限界をいい、装置などで対象を測定、識別できる能力。
190	ペネトレーション (ぺねとれーしょん)	格納容器を貫通する部位。配管などの機械貫通部と、電線などの電気貫通部がある。
191	ベローズ (べろーず)	ゴムや金属で作られた蛇腹のこと。英語で蛇腹を Bellows といい、山谷の構造で伸び縮みをするため、配管の曲がり部分や伸び縮みをする配管の接手に使われる。
192	偏光顕微鏡 (へんこうけんびきょう)	比較的高倍率（25～200 倍程度）で、観察対象を薄切標本（プレパラート）に加工して観察する顕微鏡。偏光（あらゆる方向に振動している通常の光のうち、ある1方向に振動する光だけを抽出して通過させること）を照らすことにより、骨材に含まれる鉱物の種類などが観察できる。

No	用語 (よみがな)	説明
193	偏析 (へんせき)	合金などが凝固する際、不純物や成分元素の濃度分布が不均一になる現象。
194	保安規定 (ほあんきてい)	原子力発電所の運転の際に実施すべき事項や、従業員の保安教育の実施方針など原子力発電所の保安のために必要な基本的な事項を記載したもの。
195	ポイドスウェリング (ほいどすうえりんぐ)	中性子照射により、鋼材中にポイドといわれる空隙が発生し、鋼材が体積膨張すること。
196	ほう酸タンクポンプ室 (ほうさんたんくぽんぷしつ)	核反応を止める時などに使うほう酸を含んだ水を非常時に原子炉に注入するために使うタンク及びポンプを設置している部屋。
197	放射線透過試験 (ほうしゃせんとうかしけん)	試験体に放射線を透過させて、金属材料や溶接部の内部など目に見えない部分の欠陥を検出する方法で、医療分野でのレントゲン撮影と同じ原理である。
198	母材 (ぼざい)	切断や溶接の加工に使用される本体となる金属材料。
199	保守管理 (ほしゅかんり)	保全及びそれを実施するために必要な体制、教育などを含めた活動全般。
200	保全 (ほぜん)	原子力発電所の運転にかかわる設備の機能を確認、維持又は向上させ安全を確保する活動。原子炉施設の点検、補修、取替え及び改造を含む。
201	ホットスポット (ほっとすぽっと)	温度や放射能濃度などが周りに比べて高い場所。
202	マージン (まーじん)	「余裕」又は「安全率」のこと。
203	マレージング鋼 (まれーじんぐこう)	超強力鋼と呼ばれ、航空機エンジンなどに使われる。コバルト、ニッケル、モリブデンなどの元素を添加することにより高温での強度に優れている。またゴルフクラブのシャフトにも使われている金属である。
204	水トリリー劣化 (みずとりーれつか)	絶縁低下の1つで、水と電界の相互作用で水分が絶縁体中に浸入し、トリリー（樹枝）状に進展する現象。
205	目視検査 (もくしけんさ)	対象を直接目で見て、表面の色、凹凸、傷などを調べる検査。
206	モックアップ (もっくあっぷ)	発電所で実際に使われている機器や装置のサイズや機能などをほぼ同じにして制作し、訓練などに使う模造品。
207	モリブデン (もりぶでん)	銀白色の硬い金属で、レアメタルの1種。鉄鋼用の添加剤として使われることもあり、ステンレス鋼などにも添加される。

No	用語 (よみがな)	説明
208	モルタルバー法 (もるたるばーほう)	骨材を粉砕した試料を用いてモルタルバー(ようかん状に固めたモルタル)を製作し、貯蔵室でアルカリ骨材反応を促進させて、その長さ変化を測定し、「無害」または「無害でない」を判定する試験。
209	溶質原子クラスター (ようしつげんしくらすたー)	鋼材中の不純物である Cu や他の添加元素の集合体から成るもの。
210	溶接後熱処理 (ようせつごねつしより)	溶接部を加熱し一定時間保持した後、徐々に冷却を行うことにより、溶接により発生した残留応力を低減すること。
211	溶存酸素濃度 (ようぞんさんそのうど)	水中に溶解している酸素の量。
212	余剰抽出ライン (よじょうちゅうしゅつらいん)	一次冷却水の一部を抽出し、フィルタ等を通して浄化した後、一次冷却水システムに戻している。その一次冷却水を取り出すラインが使用できない場合に、一次冷却水を取り出すラインのことを余剰抽出ラインという。
213	リスクコミュニケーション (りすくこみゆにけーしょん)	リスク分析の過程で、リスク管理者、消費者、事業者、関連研究者などの関係者の間で情報交換や意見交換をすること。
214	リバウンドハンマー (りばうんどはんまー)	コンクリート表面の硬度を調べるハンマー状の測定器。
215	粒界型応力腐食割れ (りゅうかいがたおうりよくふしょくわれ)	ステンレス鋼の溶接熱影響部などでは、粒界にクロム炭化物ができて部分的にクロムの欠乏した領域が生成され、応力と腐食環境の作用により応力腐食割れが結晶粒界に発生しやすくなり、これを粒界応力腐食割れという。
216	粒界破面率 (りゅうかいはめんりつ)	試験片の破面の全面積に対する脆性破面の面積割合。
217	両性金属 (りょうせいきんぞく)	アルミニウム、亜鉛、スズ、鉛の4つの金属。酸、アルカリと反応するので「両性」と言われる。
218	冷却材喪失事故 (れいきゃくざいそうしつじこ)	炉心で発生した熱を除去し、熱交換器あるいは蒸気タービンへ熱を伝達する役目をもつ原子炉冷却材が、配管の破損等により流れ出し炉心の冷却機能が損なわれる事故。
219	レーザーショットピーニング (れーざーしよつとぴーにんぐ)	金属の溶接部の残留応力の除去のために、レーザー光をパルス状に照射し、表面に圧力波を発生させて材料の腐食への抵抗力を上げる方法。ウォータージェットピーニングと同じ目的で使われる。
220	劣化 (れっか)	時間的な変化による構築物、システム及び機器に要求されている性能の低下又は材料特性の低下。



No	用語 (よみがな)	説明
221	漏えい検査 (ろうえいけんさ)	原子炉格納容器バウンダリを構成するシール部，電線貫通部及び原子炉格納容器隔離弁に圧縮空気または窒素ガスを加圧し，これらの部分からの漏えいの有無を確認する検査。
222	炉心 (ろしん)	原子炉の核分裂連鎖反応が起きてエネルギーを発生する燃料集合体のある部分。
223	炉心領域 (ろしんりょういき)	燃料装荷されている状態での燃料最上部から最下部までの範囲。
224	炉内計装筒 (ろないけいそうとう)	原子炉の中で，核分裂で発生した中性子の量を測定するための計測器を支える筒。
225	炉内構造物 (ろないこうぞうぶつ)	原子炉容器の中で核燃料を保持する構造物。

<英語略称>

(アルファベット順)

No	用語 (よみがな)	英語表記 (日本語表記)	説明
1	ACA ガイド (えーしーえー がいで)	Assessment of Cable Aging for Nuclear Power Plants ガイド (原子力発電所のケ ーブル経年劣化評価 ガイド)	原子力発電所におけるケーブルの経年劣化を評 価するための指針。
2	ASME (あすめ)	American Society of Mechanical Engineering (米国機械学会)	アメリカ合衆国における機械工学についての学 会。
3	ATENA (あてな)	Atomic Energy Association (原子力エネルギー 協議会)	原子力産業界の共通的な技術課題に、原子力産 業界全体で取り組むために、事業者・メーカーで設 立した組織。
4	BMI (びーえむあ い)	Bottom-Mounted Instrument (炉内計装筒)	原子炉の中で、核分裂で発生した中性子の量を測 定するための計測器を支える筒。
5	BMI 管台 (びーえむあい かんだい)	Bottom-Mounted Instrument 管台 (BMI 管台)	原子炉容器の下部にある炉内計装筒の溶接接合 部。
6	BWR (びーだぶりゅ ーあーる)	Boiling Water Reactor (沸騰水型原子炉)	原子炉炉心で核分裂反応によって発生した熱で 直接水を沸騰させ、その蒸気をタービンに導いて 回転力に変えて発電する方式の原子炉。
7	CAP (きゃっぷ)	Corrective Action Program (改善措置活動)	事業者が、自主的な安全性向上の取組として、発 電所内で気づいたこと、国内外の原子力発電所で 発生したことなどを確認し、発電所の運用や設備 の改善などを行うこと。
8	CAV (きゃぶ)	Cumulative Absolute Velocity (累積絶対速度)	地震の揺れの強さを計る指標の一つで、地震加 速度の時間積分により計算される値。
9	CDF (しーでいーえ ふ)	Core Damage Frequency (炉心損傷頻度)	1基の発電所を1年間運転する間に、炉心が損傷 する確率をあらわす数値で、単位は、「/炉年」 で示される。
10	DAC (だっく)	Distance Amplitude Compensation (距離振幅補正)	超音波探傷検査において、エコーの高さを補正 し、エコーの高さと傷の関係を定量化すること。

No	用語 (よみがな)	英語表記 (日本語表記)	説明
11	DBA (でいーびーえー)	Design Basis Accident (設計基準事故)	設計上想定している事故。
12	DBTT (でいーびーていーていー)	Ductile-Brittle Transition Temperature (延性脆性遷移温度)	鉄鋼材料の多くは、ある温度以下になると急に脆くなる性質を持っており、この温度のことを延性脆性遷移温度 (DBTT) と呼び、長時間使用された材料は様々な要因で、この温度が高温側にシフトすることが知られている。
13	DCH (でいーしーええっち)	Direct Containment Heating (格納容器直接加熱)	原子炉圧力容器が高い圧力の状況で損傷し、溶融した炉心が急速に放出され、格納容器雰囲気が直接加熱されること。
14	ECT (いーしーていー)	Eddy Current Test (渦流探傷試験)	表面の傷の検出に適しており、検査物に電流を流したコイルを近づけ、コイルに流れる電流の変化により、傷を検出する非破壊検査手法。
15	Gy (ぐれい)	Gy (吸収線量)	物質が単位質量あたりに放射線を吸収するエネルギー量を示す単位。1 グレイは、物質 1 kg あたり 1 ジュールのエネルギー吸収があるときの吸収線量。
16	HAZ (はず)	Heat Affected Zone (熱影響部)	溶融していないが、溶接・切断などの熱により組織や機械的性質などが変化した母材の部分。
17	IASCC (あいえーえすしーしー)	Irradiation Assisted Stress Corrosion Cracking (照射誘起型応力腐食割れ)	中性子照射の影響 (照射損傷) が炉内構造材料であるステンレス鋼に蓄積することに起因して発生する応力腐食割れ (SCC) 現象。
18	JANSI (じゃんしー)	Japan Nuclear Safety Institute (原子力安全推進協会)	民間の第三者機関が原子力事業者を牽引する組織として 2012 年に設立された自主規制組織。
19	JSME (じゃすめ)	The Japan Society of Mechanical Engineers (日本機械学会)	機械関連技術にかかわる技術者、研究者などからなる学術団体。

No	用語 (よみがな)	英語表記 (日本語表記)	説明
20	LBB (えるびーびー)	Leak Before Break (破断前漏えい)	配管などの内面で、き裂が発生・進展していく場合、き裂が構造物の外壁を貫通して十分に検知可能な内部流体の漏えいが生じた後に、構造物が破壊に移行するという概念。
21	LCO 逸脱 (えるしーおーいつだつ)	Limiting Conditions For Operations 逸脱 (運転上の制限逸脱)	保安規定において、多重の安全機能を確保するため、動作可能な回数などを定めており、一時的にこれを満たさない状態が発生すると、運転上の制限(LCO)からの逸脱を宣言し、速やかに必要な措置を行う。
22	LOCA (ろか)	Loss of Coolant Accident (冷却材喪失事故)	炉心で発生した熱を除去し、熱交換器あるいは蒸気タービンへ熱を伝達する役目をもつ原子炉冷却材が、配管の破損等により流れ出し炉心の冷却機能が損なわれる事故。
23	MT (えむていー)	Magnetic Particle Testing (磁粉探傷試験)	試験体に磁性を与え、表面に磁粉と言われる磁性体の微粉末を散布させて、きず部分に吸引されることによりできる磁粉模様によりきずを検出する方法。
24	NRA (えぬあーるえー)	Nuclear Regulation Authority (原子力規制委員会)	専門的な知見に基づく中立公平な立場から原子力の安全規制に関する業務を一元的に担う行政機関。新規制基準への適合性の審査等を行なう。
25	OFケーブル (おーえふけーぶる)	Oil Filled Cable (オーエフケーブル)	内部の絶縁体に油(絶縁油)を用いているケーブル。
26	PLM (ぴーえるえむ)	Plant Life Management (高経年化対策)	保守管理のうち原子力発電所の構造物、系統及び機器に想定される経年劣化事象に対して、長期間の供用を考慮した活動を行うこと。
27	PRA (ぴーあーるえー)	Probabilistic Risk Assessment (確率論的リスク評価)	原子力発電所のリスク情報を得るために行う定量的なリスク評価。
28	PT (ぴーていー)	Penetration Test (浸透探傷試験)	浸透探傷試験は、浸透液(着色されたり、蛍光性を持たせた液体)のきず内部への浸透現象を利用して表面きずを検出する方法で、金属だけでなく、非金属に対しても適用されており、目視だけでは識別できない割れ、きずなどの検出に用いられる。

No	用語 (よみがな)	英語表記 (日本語表記)	説明
29	PTS (ぴーていーえす)	Pressurized Thermal Shock (加圧熱衝撃)	事故などにより原子炉内に冷たい水が注入された場合、高温である原子炉容器外側と、水と接する内側の温度差により、引張応力が容器内面に発生する事象。
30	PWR (ぴーだぶりゅーあーる)	Pressurized Water Reactor (加圧水型原子炉)	現在世界で最も多い型式の発電用の原子炉。加圧水型原子炉は、原子炉で発生する熱を取り出す1次系と、その熱からつくられた蒸気のでタービンを回す2次系と呼ばれる2つの水の流れがある。1次系には約160気圧の圧力をかけて、高温の冷却水が沸騰しないようにし、この熱を蒸気発生器に通して2次系の水に伝え、蒸気をつくってタービンを回して発電する。
31	PWSCC (ぴーだぶりゅーえすしーしー)	Primary Water Stress Corrosion Cracking (一次冷却水中応力腐食割れ)	PWR蒸気発生器伝熱管や原子炉容器上蓋貫通部等に使用されているニッケル基合金の600合金等に見られている一次冷却水中の応力腐食割れ。
32	RT (あーるていー)	Radiographic Testing (放射線透過試験)	試験体に放射線を透過させて、金属材料や溶接部の内部など目に見えない部分の欠陥を検出する方法で、医療分野でのレントゲン撮影と同じ原理である。
33	RV (あーるぶい)	Reactor Vessel (原子炉容器)	燃料と炉内支持構造物を収納し、通常運転時の高温・高圧、異常時の過渡変化、さらに高速中性子による脆化などに対しても原子炉冷却材圧力バウンダリとしての機能を十分果たせるように設計された容器。
34	SA設備 (えすえーせつび)	Severe Accident 設備 (重大事故等対処設備)	設計基準対処設備の機能が喪失した場合においても、炉心の著しい損傷を防止、原子炉格納容器の破損を防止、又は環境への放射性物質の放出を抑制するための設備。
35	SBO (えすびーおー)	Station Blackout (全交流動力電源喪失)	外部電源及び所内非常用電源(非常用ディーゼル発電機)を喪失し、設計基準上の交流電源を全て喪失した状態。
36	SUS304 (さすさんまるよん)	SUS304	ステンレス鋼の一種で、鉄をベースに約18%のクロムと約8%のニッケルを含有した「オーステナイト系ステンレス」に分類される代表的な材料であり、JIS規格にてその成分が定められている。

No	用語 (よみがな)	英語表記 (日本語表記)	説明
37	TEM (てむ)	Transmission Electric Microscope (透過型電子顕微鏡 法)	電子顕微鏡の一種で、高電圧で加圧された電子線を試料に照射して、試料を透過した電子の干渉像を拡大して観察するもの。
38	UT (ゆーていー)	Ultrasonic Testing (超音波探傷試験)	検査物に超音波を当て、その超音波の反射の変化により、傷を検出する非破壊検査手法で、内部の傷の検出に適している。
39	WJP (うおーたーじ えっとぴーにん ぐ)	Water Jet Peening (ウォータージェッ トピーニング)	原子炉内構造物に対して高圧水を水中で噴射させ、衝撃力を金属に与えることで、内部に残っている応力を減らし、金属部品の応力腐食割れ(SCC)に対する耐食性を向上させるほか、疲労強度を向上させる予防保全技術。